

令和4年度第1回うきは市総合教育会議 議事録

1. 日時 令和5年2月2日(木) 開会 18時00分 閉会 19時30分
2. 会場 うきは市役所 2階庁議室
3. 出席者

◆委員(敬称略)

市長	高木 典雄
教育長	麻生 秀喜
教育長職務代理者	平位 秀敏
教育委員	處 愛美
教育委員	家永 由里子
教育委員	古賀 公彦
学校教育課指導主事	田中 晃詞
浮羽中学校教諭	生駒 世羅
事務局	学校教育課、企画財政課

4. 議事 (1)これからの英語教育について(意見聴取)
(2)その他

5. 議事録

○開会

○市長あいさつ

○議事

●市長

まず、うきは市の英語教育の現状について指導主事の方からご説明をお願いします。

●指導主事

私の方からは、これからの英語教育で文科省が目指している方向性、うきは市の取り組み、今の外国語教育について説明させていただきます。

昨年度末に、東京の高校入試で出されたスピーキングテストが話題になりました。例えば、外国人の先生に3コマの漫画の内容を45秒で報告しなさいというものです。これは話せる英語力を身に着けることを目指しています。

文科省によると、2050年には今よりグローバル化が進み、英語を話す機会が非常に多くなると見込まれており、今のうちから話せる英語力、コミュニケーション力を身に着けておくことが重要だと考えられています。話す力を身に着けるには、発音文法の間違いを恐れず、積極的に学ぶことが重要だとされており、中学3年生が受ける来年度の全国学力テストも先ほどのスピーキングテストのような問題が予定されています。

また、中学校では英検3級以上を50%にするという目標があり、中学3年生に対して実力テストを実施しています。令和元年度から始まり、うきはの昨年度の結果は54.2%です。県も文科省も50%を目標にしており、うきは市は上昇傾向で、非常に良い波に乗っています。

主としての取り組みは、まず小学校専科の先生を英語の教科担当として2名配置し、各学校を兼務しながら五、六年生の英語を教えています。

今年度からは、デジタル教科書の授業も開始しており、タブレットのボタンを押すと英語が発音され、生徒は好きなタイミングで確かめられるようになっています。

さらには現在、NOVA と提携し海外の方と Zoom を繋いで会話をするバーチャルツアーというコミュニケーション活動を全小中学校で実施しています。

また、今年度からは、中学校の夏休みを利用したイングリッシュキャンプを3日間実施しました。ALT がグループに1人ずつ付き、オールイングリッシュで会話をするものです。大体15名ほどの希望者が両中学校から参加し、楽しかったという感想や英語に関わる仕事につきたいから挑戦したという子も数名いました。このキャンプが好評だったことから、2学期から部活のない曜日に1回1時間程度、ALT を活用して中学の授業とは違うイングリッシュ活動のような英語教室を開催しています。これも両中学校の1年生から3年生までで参加しており、2学期は約15名、3学期は10数名生徒がいます。

次に小学校での取組ですが、平成23年度に小学校五、六年生について外国語活動が週1時間入りました。この外国語活動というのは、音から入って、耳を慣れさせていくというもので、音を聞いてビンゴゲームをするなど簡単なものでした。

これが、令和元年になると小学校三、四年生が対象になり、新たに外国語が教科として入ることになりました。中学校の前倒しのように見えますが、小学校の外国語はコミュニケーション活動の延長として耳にどんどん音を入れて話させて、最後は書くというような指導を続けています。

以上がうきは市の小学校での取り組みになります。

中学の詳細については生駒先生にお話して頂きますので、これで発表を終わります。

●生駒教諭

私が英語教育で大事にしているのは、「コミュニケーション活動の充実」、「ICTの活用」、「楽しみながら身に着ける」の3点です。

まずはコミュニケーション活動の充実についてお話しします。授業の中での私のポリシーは「スモールトークで、時代が求める対話力を鍛える。」「毎日英語でお喋り。」「相手がいるのに話せないなんてもったいない。」です。私は4月の授業開きで必ず伝えていることがあります。それは、「今から皆さんに質問です。自宅で英語を自ら話している人、手を挙げてください。(誰もいません。)だから授業のこの50分間は、どうか先生のオールイングリッシュを頑張って聞いてほしい、とにかくみんなには英語を話してほしい、一緒に頑張ろう!」というものです。そこから多くの子がジャパニーズオールイングリッシュを目指して頑張ってくれています。

こちらは、毎事業で実践しているスモールトークの実際の映像です。子供たちが飽きずに楽しく話せるように毎回楽しいテーマを設定しています。

※映像※生徒が1対1になり英語で話している様子

スピーディーにリズムカルに行くことを徹底しており、ペアを変えとにかく話します。

最近のテーマは「ミニストップの新作のパフェはもう食べましたか。」や「新しく出来たハンバーガー屋さんに行きましたか。」などです。どんな授業でも少しでもいいので話す時間を絶対に作るようにしています。

次にICTの活用についてです。まず、教員にとってのICT有効活用の例を挙げますと、英単語のリズムカルチェックができることです。単語の意味をそのまま覚えさせるよりも、イラストとセットの方がより効果的に覚えることができると思います。こちらが私の実践映像です。

※映像※イラストと英単語が載った画面を見ながら先生の発声に合わせて生徒が発声している様子

このようにイラストとセットで覚えさせることを大事にしています。

次に生徒にとっての有効活用例です。こちらはプレゼン発表に向けての事前練習の様子で、ペアで録画をし合っているところです。

※映像※生徒が1対1で向き合ってタブレットを用いながらプレゼンしている様子

子供たちは録画したものを確認し自分の弱点、例えばアイコンタクトができていない、声が小さいなどに気付くことができます。続いて実際のプレゼンの様子です。

※映像※生徒が3対3でグループプレゼンテーションをしている様子

意外にもグループプレゼンテーションが好きだという生徒が多かったです。原稿を読み上げるだけの発表ではなく、スライド上のキーワードを見ながら発表できるようになることがみんなと私の目標です。

このようなプレゼン活動は学期に1回は必ず実施するようにしています。そしてプレゼン活動は発表しただけで終わるともったいないので、そのプレゼンを作品に作り変えていきます。それがこちらです。ロイロノートを使って自分の発表を1枚にまとめ、プリントアウトし、作品集を作ります。

さらに他学年が通るフロアに掲示したりもしています。自分たちが頑張って取り組んできたことが、このような形になりとても嬉しそうでした。

その他にも、私が中学生の頃は「私の憧れの人、尊敬する人」というテーマでプレゼンをしていたのですが、子供たちになじみやすい「推し」という言葉を使い、「私の推し紹介」をしました。

いつも授業を考えるとときに重視しているのが、子供たちにとって興味がわくような内容か、英語で話したくなるようなテーマかを常に考えるようにしています。

続いて、子供たちが日頃から鍛えているスピーキング力を発揮するパフォーマンステストについてです。以前の私はフクトの学力テストも高校入試も全て筆記なので、文法を正確に暗記させることに必死のあまり時間が余ればパフォーマンステストをしようといつも後回しにしていました。

しかし今では全国学力テストや大学入試など、コミュニケーション的なテストが開発されておりますので、それに対応していくべく、パフォーマンステストを多く実施しています。そこで最近私が始めた取り組みが「スピーキング力 Up っぷ！」大作戦です。私が問題を録音したカードを生徒全員に配布し、生徒は個人で問題に取り組んでいきます。実際の音声はこちらです。

※音声※英語の質問が3問ほど間隔を空けて流れる

このような緊張感たっぷりのスピーキングテストを最近は週に1回行っています。こちらが実際に生徒が録音している様子です。

※映像※生徒がタブレットに向き合い、マイクを使って受け答えしている様子

ただ質問に答えることができたなら1点、プラスアルファでもう一言付け加えることができたなら1点加算されます。

※音声※先ほどの質問に生徒が英語で答える音声

生徒が録音したものを後日ゆっくりと採点できるのも魅力です。繰り返し私が聞き直すことができるので、生徒への細やかなアドバイスにも繋がるメリットがあります。

それでは、最後のテーマに移ります。私が皆さんにお話した内容は、とにかくスピーキング力に力を入れているということだったと思います。しかし、スピーキング力だけを育ててはもちろん好ましくなく、4技能全てをバランスよく育てていくことが大切です。特に公立高校入試では高いライティング力が求められます。30語以上の英語で自分の考えを述べなければならず、難しいです。

しかし、楽しく学ぶということも妥協できなかった私は、子供たちが楽しめるように、4技能の育成と楽しさを両立させる取り組みを考えました。その中でも五つ紹介させてください。

一つ目が英作文の特訓です。3年生から取りかかると遅いので2年生の早い段階から取り組みをしています。廊下に英作文の問題を置き、様々なテーマに対して生徒が英作文を書き提出します。提出した生徒には英作文ポイントカードが与えられます。1枚につき1ポイントです。子供たちはポイントを貯めたいので必死に英作文の問題に取り組んでくれます。

二つ目が、定期的に英単語の小テストをしているのですが、ただの小テストではなく、一工夫加えた部活動対抗英単語コンテストです。普通の単語テストよりも、より一層盛り上がります。

三つ目は、最近始めた班での英語交換ノート「あなたの番ですノート」「通称あな番ノート」というものです。私がお題を与え、子供たちがその話題に沿ってエッセイを描き、次の人に回していきます。班で一周すれば新しいテーマに変わります。毎週金曜日に子供たちが提出し、私が添削をして月曜日に返却をしています。今週のテーマは My Favorite Sweets で、「私のお気に入りのお菓子」でした。子供たちは子供たち同士で他の人のエッセイを読むのを楽しみにしているようです。もちろん私も非常に楽しみにしています。

そして四つ目ですが、私は学生時代に洋画をたくさん観て俳優さんのセリフをものまねし、英語を勉強していました。そのおかげで発音が少し改善され、苦手だったリスニングが少し良くなりました。このような実体験から子供たちにも洋画をたくさん見てほしいという思いを込めて映画のポイントカードを作りました。映画好きな生徒が週末に映画を観て私と映画トークをしています。今後、授業での映画鑑賞のレッスンをしていきたいと考えています。

最後の五つ目が去年実施して、子供たちにも大好評だった桃太郎英語劇です。一年生に学習した文法をフル活用してセリフを全て英語で作し、小道具も舞台セットも衣装も全て手作りです。全員がセリフを暗記し、本番に臨みました。テストではなかなか点数を取ることができない厳しい子でも、英語のセリフを一生懸命覚え、演技をする姿には涙が出ました。

以上が私が本日皆さんにお伝えしたかった内容です。以前までは教材研究が苦手で、授業準備がすごく苦痛でしたが、今では子供たちをどう驚かせようかなとか考え、喜ぶかを想像しながら、授業の準備をすることがとても楽しくなりました。これからも引き続き頑張ります。ご清聴ありがとうございました。

●市長

ありがとうございます。私達も 50 年前ぐらいは文法から入り、苦手になった経緯がありますが、今は真逆のように感じます。1 週間に何時間ぐらい英語を教えられてるんですか。

●生駒教諭

ファーストクラスは 1 週間に 4 時間です。

●委員

先生の授業は何度も見せていただいています。文科省は出来たら授業の 70%ほどを英語でとしています。先生の授業は 100%に近いです。そしてものすごくテンポが速いのですが、生徒がちゃんと反応しています。なにか秘訣はあるのでしょうか。

●生駒教諭

最初に感じたのは、小学校からもの物凄く鍛えて下さっているの、中学 1 年生の段階で自分が英語で話しかけても抵抗がないように感じました。

●委員

私たちの世代は日本語を英語に置き換え、英語を日本語に置き換えてというふうにしていましたが、今は英語で考えて英語で返すような能力がついていると思います。大変びっくりしています。

●委員

確かに、私達は頭の中で一生懸命日本語に訳しますが、その前に感覚的に分かっている反射的にも出てきているので、しっかりリスニング出来ているんだと思います。ぱっと反応できるのは細かいニュアンスなどが聞き取れているからでしょうし、それはやっぱり先生が楽しんで英語を使ってくださっているからだと感じます。言葉ってやっぱり楽しくないと覚えられないと思います。

●委員

授業中にも文法も教えているんでしょうか。

●生駒教諭

教えて、すぐにその文法を使って実際に話すようにしています。話しながら覚えていくというのを大切にしています。

●委員

先ほど公立高校の入試について、入試とその一方でコミュニケーション能力を高める比率というか、中学校ではどのように取り組んでいるのでしょうか。今まで高校入試のためとか、大学入試のための英語の勉強がメインで、先生が実施されている ICT 教育も非常に重要な役割になってるなと思うんですけども。

●生駒教諭

ゴールは受験が大事かと思います。1年生からずっと話す授業ばかりだったので、学力テストは正直心配なところもありました。今ではテストでライティング力が付いてきていることも実感できたので、このままのやり方を続けつつライティングも増やしていきたいと思っています。

●市長

入試の英語の傾向は未だ文法などに重きがあるのでしょうか。

●教育長

今はそうですが、今後は恐らく東京都の高校入試のようなものが求められてくると思います。ここ2~3年のうちに取り入れられてくるのではと感じています。

●委員

時代に併せて入試制度も変わらないといけないと思います。そういった意味では小学校から英語に親しんで楽しさを感じてもらうことが重要です。

●委員

自分の学生時代を思い出したときに今の授業スピードは凄く早くて驚きました。ということは、小学校3年生など英語を学び始める最初の入りがすごく大事になってくると思います。

●教育長

小学校に英語専科を入れてるのはそこがポイントになります。三、四年の素地をもとに、5~6年生になってくると英語本来のことをマスターしていかなければいけないので、専門の先生2人を配置していることところです。

●委員

書くことについてはどうでしょうか。入試でも必要な力になると思います。

●生駒教諭

ライティングが苦手だと感じてる子は確かに多いとは思いますが、授業でも喋るばかりではなく、最後には喋ったことを書くという構成をとっています。

●委員

先ほど見せて頂いた授業は全てオリジナルで考えていらっしゃるということで、先生たちのそういった創意工夫が子供たちの力になる一番理想的な教育の形だと思います。

●市長

私から提案ですが、まず観光の視点でいくと今マリOTTが建設中で今年の10月にオープン予定です。お客さんの半分がインバウンドで、コロナ前もヨーロッパから多くのお客さんが来ていました。当時地域おこし協力隊の方が究真館高校の希望者5～6人を募って座学や、外国人観光客に通訳させるなどの生きた英語を学べる活動を行っていました。その後生徒たちはモチベーションが上がりほとんどが立命館アジア太平洋大学に進学するなどしています。そういったイングリッシュ活動を行政と連携して実施し、子どもたちに生きた英語を学べる機会を与えることは出来ないだろうかと考えています。現在、英語が話せる地域おこし協力隊も2人ほどいます。

●教育長

放課後の英会話の時間は、NOVAに任せており契約等の関係もあるので発想を変えて構築しないと難しいのが現実です。一方でNOVAのALTがうきはの中学生と話をするのが楽しみだと言ってくれており、放課後の英会話教室も積極的に取り組んでくれています。そういった意味では、例えばお雛様巡りの際に中学生がボランティアで2人1組になり英語で案内するといった活動も不可能ではないと思います。

●指導主事

他地域の先行事例として、総合的な学習の時間に「地域を紹介しよう」というテーマで外国の方に観光地などを紹介するという実践を見たことがあります。

●市長

純粹に子供に生きた英語で海外の人と話す機会を作ってあげてもいいんじゃないかなという発想です。コロナ前のように必ずインバウンドは増えていくと思います。

●教育長

次のステップとしては市長が仰ったとおり連携とか、交流会なども考えられます。ただ、学校はいま授業日数の確保が大変で、なかなかプラスアルファができない状況でもあります。

●委員

先生が言われたように、総合的な学習の時間を続けるとか、英語の中のどの活動に位置づけるかなど、それが高校と若干違うように感じます。中学校は義務教育なので、文科省が定めた授業時数の確保がありますから、それに縛られないところで自由にどう位置づけるかが難しいと思います。子供たちも忙しい状況です。

●委員

子供たちが総合的な学習の時間や、地域活動のように地域のため、といったところでは可能性があるのではないのでしょうか。

●委員

市長が言われるようにネイティブの英語を話す方と直接コミュニケーションをとる何かしらの活動が出来ればと思います。例えば中学生と対話をするという時間を観光ツアーの中に組み込むなど、実際そこでコミュニケーションがとれたら生徒のモチベーションも上がるのではないのでしょうか。

●教育長

言われるように、外国の人と直接話す機会が増えれば、こどもたちの興味関心が更に増すだろうと思いますが、設定が難しいところもあります。

以前算数・数学の専門の先生と話をした際に、算数・数学というのは、日常生活から数学的見方・考え方を学びますが、英語は逆で、英語から日常生活に落とし込む流れなので、子供たちが最初につまずいてしまうということでした。よって今の英語教育は日常から英語に入っていきようにしており、それが本来の姿だろうと思います。そういった発想の転換が自分たちの世代では難しいところがあります。

●市長

それから紹介ですが、若葉保育園と幸輪保育園では早期英語教育に取り組んでいます。講師は黒木明日香さんという本業がソプラノ歌手の方で、東京の芸大を卒業しイギリスに5年間留学しています。その際に、自分の英語がイギリス人に全く通用しないというのにショックを受けたそうです。そこで幼児教育を通じ、3歳あたりまでに英語を聞かせ、リスニング力をつけることが重要だと気づいたことから、歌と英語をセットにした幼児教育を保育所で実践してくれています。

驚いたのが令和3年11月に保護者のアンケートで99.9%の方が絶賛しており、「自分の子供が家に帰ってきて英語で話すようになった」とか、「発音が凄く良くなった」という風に聞いています。

●教育長

そのように英語も頑張っている中、ふと国語はどうなんだと言われるかもしれませんが、国語も同じ言語に共通するものですから、言語を大事にしていけば、国語も英語も高まっていくと思います。

●委員

英語も日本語も声に出して発しなればコミュニケーションは成り立たないので、そこが噛み合うと楽しくコミュニケーションが取れると思うので、そういった子供たちに育ってくれればと願っています。

●委員

実際 AI が発達してリアルタイムで翻訳ができるような機械が出てきていますが、やっぱりその言語で考えることができるのが本当のコミュニケーション能力だと思いますので、それを中学生の間に学ぶことができると本当素晴らしいと感じました。

●指導主事

これだけ中学生が恥ずかしがらないで学習しているというのは、普段の学校生活の中で自分たちが話しても大丈夫だという心理的安全性が浸透しているのだと思います。皆がそれを馬鹿にしないで楽しみながらできるというのは自尊感情ではないですが、良い関係性があるからでしょうし、それはやっぱり学校の力だろうと感じています。もちろん先生方の指導力もありますが、組織的にそういった雰囲気を作

っていただいている先生方の努力も1つの要素だと思います。

●委員

タブレットを一人ひとりに渡し、英語以外の授業についても上手く活用していることが、うきは市が向上している要因だと思います。

●委員

先生がおっしゃったように ICT を上手にを使って英語教室されているのは素晴らしいし、それが大きな力になってると思うんですけど、ここから先は実体験が重要だと思います。

生きた人間とどうコミュニケーションを取るかというのが本当の力になっていくと思いますので、ICT を上手にを使って付けた力を体験でもっと深めて頂けたら良いですし、そのためには市長が提案なさったようなインバウンドの方と直接話す場を私達がどうやって作り出せるかが課題になってくると思いました。

●市長

ありがとうございました。

それでは他に意見がないようでしたら質疑意見交換を終了させていただきたいと思います。

様々なご意見を頂きありがとうございました。

○閉会